

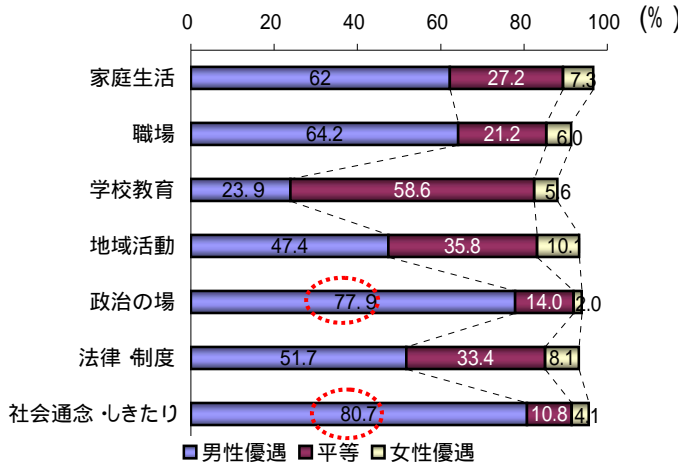
1. 男女平等意識



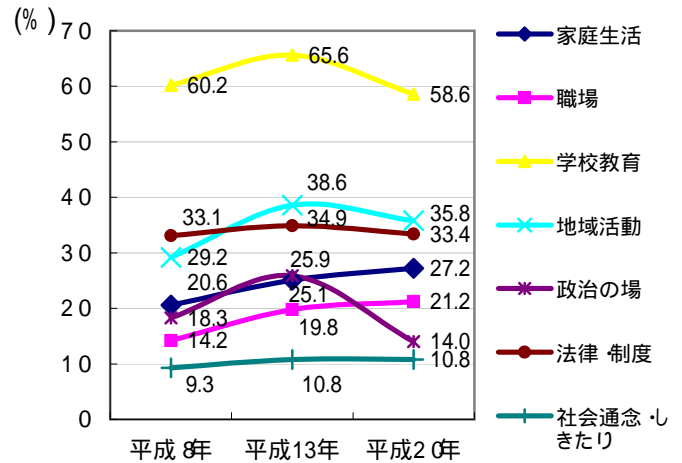
1 - 1 各分野での平等観

分野別男女平等感と推移

各分野での平等感



「平等である」の過去調査推移

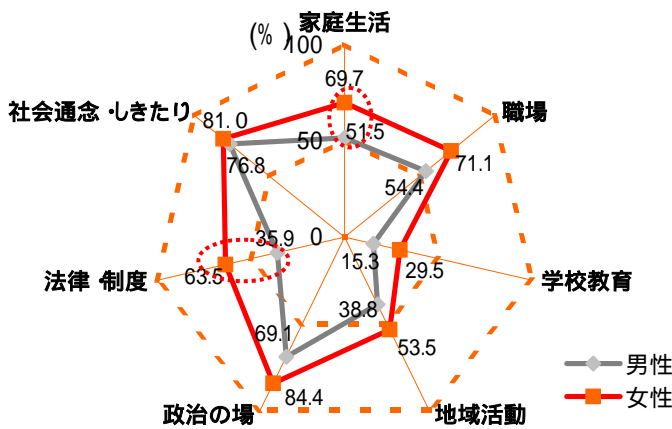


ほとんどの分野で「男性優遇」と思っており、男女の不平等感が依然として強い傾向です。

- ・ 「学校教育」を除く全ての分野で「男性優遇」と感じる割合が「平等である」割合を上回ります。
- ・ 特に「政治」「社会通念・しきたり」の分野では3/4以上が「男性優遇」と答え、男女平等が進んでいない分野ということがわかります。
- ・ 家庭生活・職場での平等意識はゆるやかに改善しているもの、他の項目では過去調査と比較しても改善はみられません。

男女別男女平等感の認識差

男女別「男性優遇」と感じる割合



男女間では認識に差があり、全ての分野で女性の方が男女の不平等感を強く感じています。

- ・ 男女の認識差に注目すると、認識差が一番大きい分野は「法律・制度」であり、「男性優遇」と答えた割合は女性の方が27.6%高くなっています。
- ・ 次に「家庭生活」が続き、その差は18.2%となっています。



紹介

「りぶら」は男女共同参画を応援します

女性相談（電話相談・面接相談）
 男女共同参画推進関係講座やイベントの開催
 男女共同参画に関する資料収集と提供
 施設の提供（有料）
 講座・講演会中の一時保育も実施しています

詳しくは
 「りぶら 市民活動総合支援センター」電話 0564 23-3241へお問合せください

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

男性は肯定派、女性は否定派が多くなっています。

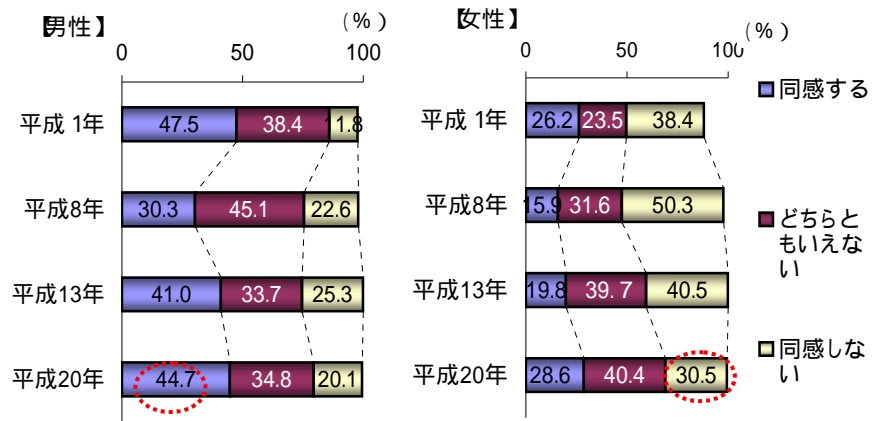
- 男性では44.7%が肯定派、女性は否定派の割合が高く、30.5%が否定しています。
- H8以降、男女とも肯定する割合が増加しています。

「固定的な性別役割分担意識」

個人の能力、適性等に関係なく、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。

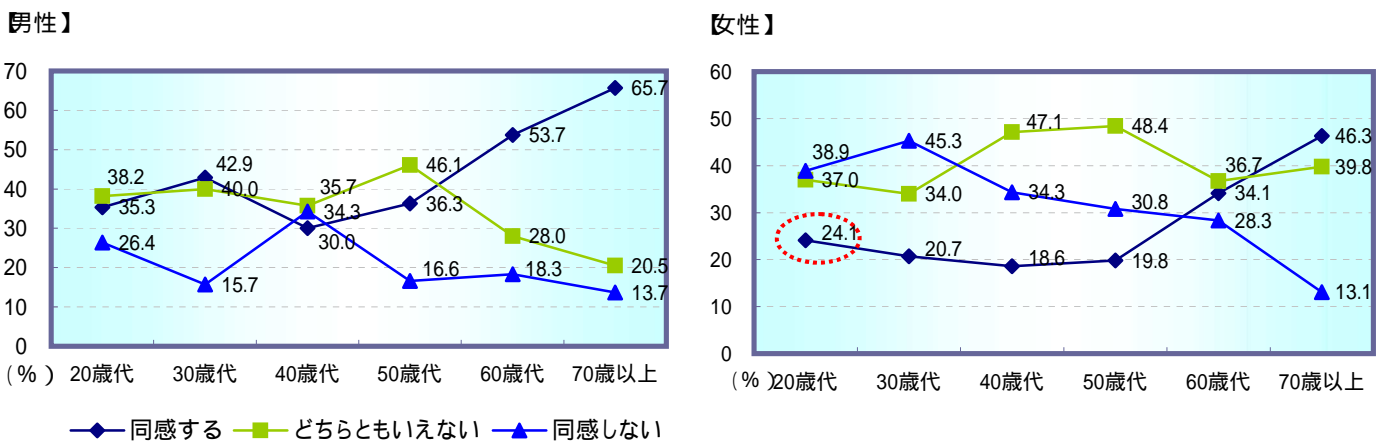
「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は、固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか？



世代別「男は仕事、女は家庭」という考え方について

世代別「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか？



- 男性はどの世代でも女性より固定的性別役割分担意識の肯定派が多くなっています。
- 否定派は女性の30歳代で45.3%、男性の40歳代で34.3%と他の世代より多くなっています。
- 20歳代の女性は24.1%が肯定しており、30~50歳代の女性に比べ、固定的性別役割分担意識が高いことがうかがえます。

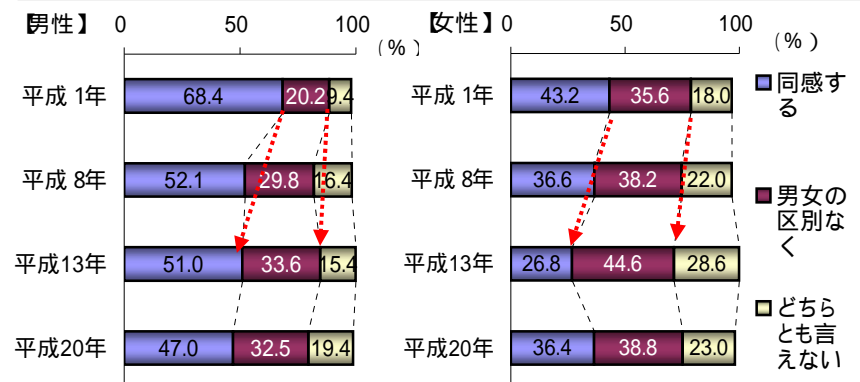
男女とも年齢が高い世代で固定的性別役割分担意識が強い傾向です。

子どもの育て方について

「男らしく、女らしく」育てることへのこだわりは、男性を中心にまだ色濃く残っています。

- H1~H13年までは、固定的性別役割分担にとらわれない「男女区別なく」という意識が拡大していましたが、H20年調査では、逆戻りして、特に女性では「同感する」という割合が増加しています。

子どものしつけについて「男の子は男らしく、女の子は女らしく」



現状は固定的な性別役割分担意識がまだまだ残っていることがわかります。男女不平等感の改善や固定的性別役割分担意識を変えていくには、より一層の努力が必要です。